

【続き】

□ シンプルさと明快さ

彼女の詩はシンプルで明快な言葉遣いが特徴です。これも、禅の教えにおけるシンプルさと核心を突く表現と共通しています。つまり、鈴木大拙の教えにある禅のシンプルな表現は、茨木のり子の詩のスタイルと共通しているといえます。

□ 自然との調和

茨木のり子の詩には、自然との調和や一体感が、多く描かれています。これも、禅の思想における自然との一体感と重なる指摘できます。

結果、鈴木大拙の立場と茨木のり子の詩情とは関連が深いといえます。これらの境地は、禅における「自由」という概念と重なっています。ただ、禅での「自由」は、西洋の概念である Freedom や Liberty とは異なっているとの理解が要点です。

そして、禅の「自由」は、自己の内面の解放や心の平静を指し、外部の制約や他人の評価に左右されない自己の在り方に重点を置いています。それは、人間の生き方への示唆となります。

茨木のり子の詩「自分の感受性くら

い」や「倚りかからず」は、以上の点と、とりわけ一致します。ここでは「自由」という言葉は登場しませんが、自身自身で考え、行為し、つくり上げることを述べています。

それこそが自由の意味の、自らに在り、自らに由る(よる)ことであるわけです。心も体も自身が管理者ですから、他者からの束縛や規制から解放される自由ではなく、自身の意志に由来する自由の大切さ、それへの気づきを述べています。これは、禅の教と一致しています。

以上、彼女の詩情は禅の自由と共鳴 & 共在していることを述べました。

茨木のり子の詩は、読み手に、そして読者である市民に、自己の内面を見つめ直し、真の自由を追求することの大切さを伝えていきます。いまの時代では身近に、いまを生きる「自由」を前提としてもいいでしょう。こうして鎌倉で茨木のり子のイベントを行うことの意義を見出せるのではないのでしょうか？

2024年秋／鶴と權

朗読と文学の会@鎌倉

茨木のり子の詩情世界

—— 鎌倉生涯学習センター ——

きりりら鎌倉 音楽室(2F)



LOVE & PEACE

「愛は努力である」
by プラトン

Be Bold, Be Brave, Be You !
Yes, We can do like as Noriko Ibaragi.

□発行：一般社団法人 洗楓座 □編集：青柳浩生
□WEB：<http://www.kofuza.com/html/event.html> □Mail：ksato@kofuza.org
□Tel：090-1268-5882 □発行日：2024年9月21日 □売価：500円(60部限定)

□主催 朗読と文学の会@鎌倉実行委員会

□共催 鎌倉共生の会、松戸朗読と文学の会、(一社) 洗楓座

□後援 鎌倉朝日新聞社、東京新聞横浜支局、

わがふるさと支援(株)、ほか

序

「茨木のり子2024秋／鶴と權」を、鎌倉で行うことになりました。鎌倉は、大仏、円覚寺、建長寺、長谷寺、東慶寺、…。精神性の高い歴史都市です。著名な作家がたくさん住んでいた文学の都市でもあります。現代詩の長女と評される茨木のり子は、鎌倉には住んではいませんでした。詩情では深いつながりがあると思います。



茨木のり子その詩情は、次のような特徴があります。

《自己の探求と本質の追求》 《シンプルさと明快さ》 《自然との調和》。これは、日本人の精神文化ともいえる「禅のこころ」と一致しています。茨木のり子の詩のひろがりをつくりたいと思います。この行事では、朗読のほか舞踏と音楽も取り入れ、詩を探求しさらに普及をはかりたいと思います。今回は鎌倉の文学性との関りから、地元土谷精作氏による「小泉八雲の教え子たち」という特別講演も企画しました。お楽しみください。

企画 佐藤建吉（青柳浩生）

2024年9月21日

次第

○日時 2024年9月21日午後3時～5時

○会場 鎌倉生涯学習センター・きらら鎌倉 音楽室

(一) 第一部 湧く《泉》

特別講演 「小泉八雲と教え子たち」 土谷精作

(二) 第二部 翔ぶ《鶴》

朗読 松島邦・山川建夫

(三) 第三部 漕ぐ《權》

朗読 ムンロ王子・本橋映子

弾き語り 引田香織

舞踏 三浦一壮

伴奏／小森俊明 朗読／松島邦

クロージング

#茨木のり子

茨木のり子、本姓・三浦、1926年（大正15年）6月12日、2006年（平成18年）2月17日）は、日本の詩人、エッセイスト、童話作家、脚本家。結婚前は、宮崎園子。三浦安信（医師）と1949年に結婚。1953年5月に「詩学研究会」の仲間の川崎洋と同人誌「權」を創刊。創刊号は川崎洋・茨木のり子の二人。二号から谷川俊太郎、三号から吉野弘、舟岡遊治郎、四号から水尾比呂志が参加、その後は中江俊夫、友竹辰、大岡信などの詩人が参加。

主な詩集に、『対話』『見えない配達夫』『鎮魂歌』『自分の感受性くらい』『寄りかからず』ほか。戦時下の女性の青春を描いた代表作の詩「わたしが一番きれいだったとき」（1958年刊行の第二詩集『見えない配達夫』収録）は、多数の国語教科書に掲載されている。

#佐藤建吉（青柳浩生）

茨木のり子の夫、母、墓所のある鶴岡市出身。「金属疲労のメカニズム」で工学博士取得（元千葉大学准教授）。金属疲労には結晶の転位が関係しているが、愛と平和のある社会の広がりには茨木のり子の詩情詩趣が大事と説くソシオエンジニア。「できる状況づくり」を提唱し、「課題」を「チャレンジ」にする。



#鶴と權

今回の行事の副題に鶴と權としたのは、次の理由からです。

「鶴」は茨木のり子の詩の題名。「權」は、茨木のり子と川崎洋が1953年につくった同人誌の名称。船の權として二人で漕ぎ出した。この回も、茨木のり子の普及のため世界に漕ぎ出すということ。

#洗楓座の茨木のり子の行事例

2019年11月9日、江戸川区
20年10月9日、渋谷区
21年12月22日、港区
22年11月6日、軽井沢町
22年11月17日、軽井沢町
22年11月23日、千代田区
23年6月12日、北区
24年2月17日、目黒区
24年6月15日、松戸市

主催者スピーチ

朗読と文学の会@鎌倉実行委員会／鎌倉共生の会

会長 鈴木克也

わが街、鎌倉で朗読と文学の会が開催されることになり幸いであります。今回の共催団体に連ねております団体やメンバーとは交誼を得ており御礼を申し上げます。

特に、松戸の朗読と文学の会には、私もしばしば出かけて、鎌倉の活動や展開を発表させて頂いております。昨年6月に松戸の会を迎えてアジサイの瑞泉寺探訪を行って以来、今年も鎌倉での開催となりましたので、文学の面から土谷精作氏に小泉八雲の関連を発表して頂くことにしました。

また、洗楓座の企画により、茨木のり子の詩の世界を鎌倉で展開できることを嬉しく存じております。



鎌倉 瑞泉寺山門

#朗読と文学の会@鎌倉実行委員会

会長／鈴木克也、副会長／小山勝、幹事／佐藤建吉・久保田賢三、事務局長／榎太

#鎌倉共生の会 #鈴木克也

大阪府出身。鎌倉で野村総合研究所に勤務、経営計画やマーケティングを担当、その後、公立はこだて未来大学で社会学や地域学を教授。定年後、鎌倉に戻り、エコハ出版を創立、40冊以上を出版。また鎌倉の歴史・文化・まちづくり等をテーマにした講演会&勉強会を「鎌倉共生の会」を主宰し、月例行事として活動している。

#松戸朗読と文学の会

千葉県松戸市で、毎月水曜日の午後で開催される。これまで通算で110回超の会を開催している。堀川静雄が遺した「人間は表現する動物である」をミッションとしている。現会長の小山勝は高知県出身。夜さ来い祭をニューヨークで、同志とともに実施。元住宅建設会社役員。全国ふるさと大使連絡会議理事で、自身も高知県、島根県ほかの、ふるさと大使でもある。

<https://www.facebook.com/groups/1469434473815759>

企画者トーク

青柳浩生

鎌倉で茨木のり子の行事を行う意義について

茨木のり子の詩情は、鎌倉で大成しそこで人生を終えた禅研究の大家・鈴木大拙の禅の心に通じるものであり、これが最も深い背景ではないかと考えます。

彼女は鎌倉に住んだことはなかったのですが、鎌倉在住の文人などとの関わりはあったし、また近くの藤沢市鵜沼海岸へ出かけた記録などもあるのですが、こうした係わりよりは、禅精神との係わりの方が、むしろ重要になります。

この背景については以下のように、概括できそうです。

□内面的な自由

茨木のり子の詩は、自己の感受性や内面的な自由を強調しているのですが、これは、禅の思想における心の解放や自由と深く結びついています。鈴木大拙の教えで強調する、心の束縛からの解放というテーマは、彼女の詩にも通じています。

□自己の探求と本質の追求

彼女の詩は、自己の本質を探求し、真の自己を見つめることを強調しています。これは、禅の修行における自己の本質を見つめる過程と一致します。鈴木大拙の禅の教えで強調する「自己の見つめ直し」は、茨木のり子の詩情にも深く影響を与えていると言えそうです。

【裏表紙に続く】

#一般社団法人洗楓座 (じんぷんざ)

法人名の洗は水力と太陽光を、楓はバイオマスと風力を、座は地熱を漢字のヘンとツクリから意味づけて、自然エネルギー推進を意図して命名。その宝庫である地方が疲弊しているので、地域快活を総合的プロデュースのため、ブルネル、ローカル鉄道応援酒「鐵の道」、まちなか大学院、茨木のり子などの活動を展開している。

<http://www.kofuza.com>

#久保田賢三

長野県出身。松戸朗読の会の幹事を、同窓の小山会長の下で行ってきた。会の実質的けん引役。今回の鎌倉の会ではMCを担当。

第一部

湧く《泉》きる

特別講演 「小泉八雲と教え子たち」 土谷精作

以下、講演者の資料から転載

一 松江中学のヘルン先生と教え子たち

○小泉八雲の絶筆の手紙

・「心臓発作で死去する直前に教え子たちに出した手紙
：恐らく露国はやがて日本と戦うことより他の何かを考えなければならぬということに気がつくはずです。：（中略）：いやしくも諸外国の同情は日本側に集まります。とにかく、露国が満州を失うのは必然であると私は考えます。（梶谷泰之訳）

○松江中学時代の教え子たち

・「英語教師の日記から」に描かれた小豆沢八三郎

：小豆沢は大柄な、骨太の、見たところ鈍重な男だ。顔は北米のインディアンに似ている。かれの家は裕福でない。かれはたった一つ書物を買うという楽しみ以外に、金のかかる娯楽はほとんどできない身分だ。その本を買うにも、暇のある時、自分で働いて金を稼ぐのである。：とりわけかれが好きなのは、世界各国の哲学と哲学史である。：（平井呈一訳、以下同じ）

・サムライと評された石原菊三郎

：石原は侍だ。彼には人並み外れた性格の力があり、クラスでも非常な人望がある。他の生徒に比べて多少ぶつきら棒で、自

分の考えをいつも貫くが、正直で男らしいので好感が持てる。石原は自分が思っていることを何でも言う。：私を批判したことも一切ならずであるが、石原の方が間違っていると思ったことは一度もない。我々一人はたいそう馬が合う…

・横木富三郎の死を悼む哀切の思い

富三郎は赤ん坊のように爺やの肩に手を回した。房一は軽々と少年を背負って、もう冬景色の通りを歩いて行く。父親は房一の横に並んで、提灯をかざして道を小走りに急ぐ。中学校は遠くはない。小さな橋を渡ればすぐである。

大きな濃い灰青色の校舎は真夜中ほとんど真黒である。だが横木の目にはしかと見える。横木は自分の教室の窓をじっと見つめる。屋根のついた通用口を見る。幸せな四年間、あの通用口の下駄箱で下駄を草履に履きかえたものだ。小使さんが寝ている部屋、そして星空を背景に立つ小さな塔にさがっている鐘。そうした校舎の黒いシルエットをゆっくりと見合わせたのち後、横木はつぶやいた。

「こげしちようと、なんもかにも思い出せーわ。わし忘れちよったわ。そーほど病気がひどかったんだ。わなあ。なんにもかにも思い出せーわ。：：：房市、おまえは親切だな。わしは学校（がっこ）がもういつぱん見られて本当にうれしいわ」
そしてまた三人は長い人気の人気（ひとけ）のない夜道を急いで引き返した。

#土谷精作

早稲田大学卒業。NHK社会部記者、その後NHK放送文化研究所長。大学で放送論やマスコミ論を講義。鎌倉ペンクラブ副会長・現在顧問。著作に『生きていたサムライ精神』小泉八雲と七人の明治人』等がある。



晩年の小泉八雲



藤崎八三郎陸軍大佐



医学博士 石原喜久太郎



夭折した横木富三郎

二 作家と教師の二足の草鞋

○小泉八雲の略年譜から（資料1・2）

・ 来日からその死まで14年間、11作品を刊行

・ 松江一年間4か月、熊本三年、帝国大学六年七か月、早稲田大学七か月 通算十二年

○使命感に厳しい努力の人

三 帝国大学の小泉八雲と教え子たち

○講義ぶりと残された講義録

・ 流れる水の音楽にたとえられた講義ぶり
・ 講義後に講義録を読み合わせた学生たち

○詩の心を説いた小泉八雲

・ 「赤裸(せきら)の詩(うた)」の一説

私が真の詩という場合は、精神を深く揺ゆさぶり、人の心を動かす類の詩の作品ー言い換えれば、感情の詩ーということになる。これが、詩のもつ真の文学的意義というものである。(中略) 日本の詩人たちも、完璧な一篇の詩とは、その作品を読んだ後に、

人の心に何かをーつまり、皆さんの身を打ち震わせるような何かを残すものでなければならぬ、と説明している。

それゆえ、みなさんは、こうした条件をきわめて単純な言葉で表現しているような外国の詩の美しさも充分よく理解できるようになると思う。(中略) 少なくとも、英語における民衆の言葉こそは、ある種の情動的な詩歌にとつて、最良の媒介となるものである。方言に頼ったり、くだけた口語体にまで墮(おと)さなくとも、非常にへ平易な、ごくありふれた英語を用いることによってー当の詩人が心から感動しているならばー作品は大きな効果をあげることができる。

○日本の近代文学を拓いた教え子たち

・ 土井晩翠の『天地有情』と上田敏の『海潮音』

詩美(しび)の郷(さと)レスポボスの島 おほいなる文豪へ
レンうまれしところ (土井晩翠)

秋の日の ヴィオロンの ため
いきの 身にしてみて ひたぶる
に うら悲し…

(ヴェルレーヌ・上田敏訳)

・ 小山内薫、川田順、厨川白村
・ 日本近代文学の開花に貢献



資料2 小泉八雲の主な教え子たち

【松江中学時代の教え子】
・ 小豆沢(藤崎)八三郎(陸軍大佐)
・ 石原喜久太郎(医学者、ツツガムシ病)
・ 横本富三郎(早世した教え子)
・ 大谷正信(俳人、漱石の友人)
・ 落合貞三郎(英文学者、ハーン翻訳)

【熊本五高時代の教え子】
・ 黒板勝美(歴史学者)
・ 安河内麻吉(内務次官)
・ 隈本繁吉(大阪高校校長)
・ 根岸磐井(松江の旧居所有者)

【東京大学時代の教え子】
・ 土井晩翠(詩人・天地有情、英文学者)
・ 上田敏(詩人、翻訳者・海潮音)
・ 小山内薫(近代演劇運動の牽引者)
・ 川田順(歌人、八雲退任で法科へ)
・ 厨川白村(英文学者、八雲の記録者)

【早稲田大学時代の教え子】
・ 小川未明(児童文学者、卒論は八雲)
・ 会津八一(歌人、書家、美術史家)
・ 秋田雨雀(劇作家、小説家)
・ 相馬御風(文学者、早稲田校歌)

資料1 小泉八雲の略年譜と来日後の著作一覧

【来日以前の略年譜】		【来日後の著作一覧】
1850 (0歳)	ギリシャ・レフカダ島で生誕。アイルランドへ移る	
1854~1866	両親の離婚(7歳)、左目の失明(16歳)	
1869 (19歳)	渡米(シンシナティに居住)	
1885 (35歳)	ニューオーリンズ万博の日本展示を取材	
【来日後の略年譜】		
1890 (40歳)	・ 来日、横浜に滞在、	松江中学へ赴任
1891 (41歳)	・ 看病した小泉セツと夫婦、	旧制熊本五高へ転任
1894 (44歳)	神戸に転居(クロニクル社)	「知られざる日本の面影」
1895 (45歳)		「東の国から」
1896 (46歳)	・ 小泉八雲と改名、	帝国大学文科大学講師に就任
1897 (47歳)		「仏の畑の落穂」「異国風物と回想」
1899 (49歳)		「霊の日本」
1900 (50歳)		「影」
1901 (51歳)		「日本雑録」
1902 (52歳)	・ 怪異譚の再話に取り組む。	「骨董」
1903 (53歳)	・ 文科大学の解雇通知(学生の留任運動)	
1904 (54歳)	・ 早稲田大学講師に就任、心臓発作で急逝	「怪談」「日本一つの解明」

四 晩年の小泉八雲と早稲田大学

○解雇通知に激怒した泉八雲

- ・俸給の高い外国人教師の解任する方針
- ・突然の解雇通知に激怒した八雲

○学生たちの留任運動

- ・留任を願った学生たち
- ・大学側の妥協策を拒絶した八雲

○早稲田大学での小泉八雲

- ・高田早苗や坪内逍遙らが話し合って招聘
- ・早稲田大学の雰囲気を好んだ八雲

○ここでも錚々たる教え子たち

- ・教え子たちから多くの文学者が輩出
- ・児童文学の小川未明と歌人、書家、東洋美術の会津八一
- ・早稲田大学校歌の作者相馬御風

五 結びに

○小泉セツが語った裏話

- ・小泉セツの『思ひ出の記』から

：「耳なし芳一」を書いています時の事でした。日が暮れてもランプをつけていません。私はふすまを開けないで次の間、小さな声で、芳一芳一と呼んで見ました。「はい、私は

盲目(めしい)です。あなたはどなたでございますか」と内から言って、それを黙っているのです。いつも、こんな調子で、何か書いている時には、その事ばかりになっていました。：

- ・創作活動を支えた協力者の存在

○雨森信成が語った晩年の八雲

- ・雨森信成がみた八雲の姿

：ハーンは例の高い机で夢中になって帰っていた。鼻はもうつかんばかりである。一枚一枚とハーン書き続けた。その途中ハーンはふと頭を上げたが、私が見たものは何であつたらう。それは私が見慣れたハーンではなく、別人のハーンであつた。その顔面はゾツとするほど蒼白で、大きな片眼は光り、彼はさながらこの世ならぬ何者かと情けを通じているかのようにだつた。：

- ・刀をペンに代えて書き続けた壮絶な作家魂

○武士道精神に共感していた晩年の八雲

- ・サムライ精神に共感した小泉八雲

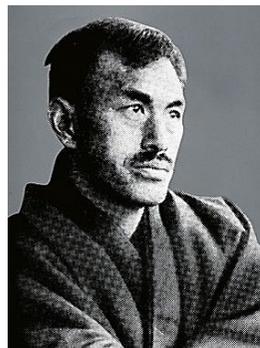
・拙著『生きていたサムライ精神 小泉八雲と七人の明治人』の紹介



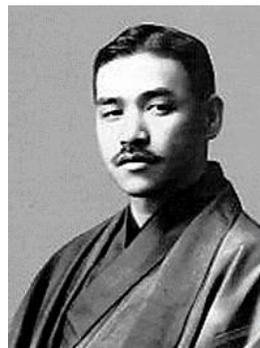
雨森信成



ハーンと小泉セツ



土井晩翠



上田敏

朗読

夕

朗読／松島邦

やさしい月桂樹よ／お前の葉を 一枚おくれ
 わたしのまぶしい夕餉の土鍋に／ひとひら／ふつつつと
 たぎる煮込料理に―
 高貴な香料は／ふと／アツテイカ風にたぐよい
 一日愚かなことをした／むなしいころは／一瞬／鳥の
 ように鋭く 放たれる
 ルイジユウベにそっくりな／太古以来の／へべれけな
 神は何処だ!!
 蘇枳いろの空に／悲鳴に似た声が残り
 ゆきくれた音波を
 みちしおのような暮色が
 ゆっくりひたしはじめる。

わたしが一番きれいだったとき

朗読／松島邦

庄内弁で表現いたします。
 わたしが一番きれいだったとき／街々はがらがら崩れていっ
 て／とんでもないところから／青空なんかが見えたりした
 わたしが一番きれいだったとき／まわりの人達が沢山死んだ
 ／工場で 海で 名もない島で／わたしはおしゃれのきっか
 けを落としてしまった

...

わたしが一番きれいだったとき／わたしはとてもふしあわせ
 ／わたしはとてもとんちんかん／わたしはめっぽうさびしか
 った

だから決めた できれば長生きすることに／年とってから凄
 く美しい絵を描いた／フランスのルオー爺さんのように

ね

#松島邦

朗読家・朗読講師・司会者・ナレーター。鶴岡市出身。早稲田大学文学部演劇専修卒、旅行関係のイベント業務を経て朗読の道へ。NPO日本朗読文化協会会員。都内、近県にて後進の育成に務める傍ら、小学校、高齢者施設等での朗読ボランティアを続ける。鶴岡出身の藤沢周平、杉村顕道・遠藤周作・小池真理子・岸恵子・平岩弓枝、本周五郎・小泉八雲。ほかに朗読劇／「二葉の恋」「たけくらべ」「悪女について」「ペアテ若き日のエポック」・「語りつこう、あの日あの頃」・「ジョー・オダネル戦争写真展&朗読会」等。



宇宙の大愛に包まれし地球
 新しき夜明け 世界五大州の夜明け
 海は すべての生命の故郷なり
 国々の文明・文化交流の海路
 豊饒の大地は 美しき緑ひろがりて
 英知と情熱の 働く力は高まりぬ
 鳩は喜びに 清き心の羽根ひろげ
 万物の母の使いか 善美の女神なり
 優しさと 純なる魂の導きか
 真理と 知恵の翼は羽ばたけり
 ”愛は努力である” とプラトンは言う
 マザー・テレサは ”Love is Action” と
 愛と思いやりの 宝座は人間生命の奥底に
 心より出ず 願いし使命は 世界の平和



LOVE & PEACE

愛と平和／Designed by 一色宏

古潭

朗読／山川建夫

むかし読んだ古い物語に／また めぐりあう 桃花源の古潭／武陵の漁師がある日 谷川を小さな舟で遡ってゆき／路の遠近も忘れたころ／この世のものともおもわれない美しい桃花にであった／

そこに一つの集落があり／のびのびとひろがる田畑の見事さ／家並みのすがすがしさ／道は四方にゆきかい 鶏や犬の鳴きかわす声も／どこで聴くよりも快適である／人はバラツトしか居ないが 老人も子供も／実へのびやかに 屈託なげで いい顔の相ばかり／桑の木も肥えている／

陶淵明の「桃花源詩ならびに記」は／老子の十章を下敷にしているらしい／が 老子のは簡潔きわまりない／桃林さえどこにもない／人口はすくないにかぎる／

むかし一人の男ありけり／女は桃の実をおもわせる みずみずしい躰と心を持っていた／・・・／男は少々飽きてきた／暮しのすべてに 貧もまた相変わらずだ／・・・

髻辺はや白々となるころおい／ようやくの思いで故山に帰りつけば／妻子はおろか 村の姿も跡形もない／

男の耳に女の言葉のきれぎれが蘇った／

男は慟哭した／故山あって 村なし／立ち枯れの桃の木あって 桃果のごとき女なし／一度取り落とした世界には／ふたたび入ること能わぬを悟って

賑々しきなかの

朗読／山川建夫

言葉が多すぎる／というより／言葉らしきものが多すぎる／というより／言葉と言えるほどのものが無い／この不毛 この荒野／賑々しきなかの亡国のきざし／さびしいなあ／うるさいなあ／顔ひんまがる／時として／たつぷり充電／すっきり放たれた日本語に逢着／身ぶるいしてよろこぶ我が反応を見れば／日々を侵されはじめている／顔ひんまがる寂寥の／ゆえなしとはせず／アンテナは／絶えず受信したがっている／ふかい喜びを与えてくれる言葉を／砂漠で一杯の水にありついたような／忘れはてていたものを／瞬時に思い出させてくれるような

#山川建夫

東京都出身。慶応大学卒業してフジテレビ入社。モーニングショー司会の後、17年後退社千葉市原市に定住し自然農業を25年以上実践。フリーアナウンサー&司会業のほか朗読講師&執筆活動。



ひな壇に並ぶ立候補者 9名 (朝日新聞 DIGITAL から引用)

朗読

知

朗読／ムンロ王子

H20という記号を覚えているからといって／水の性格
 本質を知っていることにはならないのだ／／仏教の渡来は
 1212年と暗記して／日本の1200年代をすっかり解
 った様なつもり／／人のさびしさも悔恨も頭ではわかる／
 その人に特有の怒髪も切齒扼腕も目には見える／しかし我
 が惑乱として密着できてはいないのだ／知らないに等しか
 ろう／／他の人にとってにはさわれもしない／どこから湧く
 ともしれぬ私の寂寥もまた／／それらを一挙に埋めるには
 ／想像力をばたつかせるよりないのだろうか／この翼とて
 手入れのわりには／勁（つよ）くなつたとも しなやかに
 なつたとも言いきれぬ／／やたらに／わかつた わかつた
 わかつた と叫ぶ仁（ひとし）／／わたしのわつたと言いで
 るものは 何と何と何であるう／／不惑を過ぎて 愕然と
 なる／持てる知識のあいまいさ いい加減さ 身の浮薄！
 ／ようやく九九を覚えたばかりの／私の幼時にそっくりな
 甥に／それらしきこと伝えたいと ふりかえりながら／
 言葉 はた と躓き（つまづき） 黙り込む

鍵

朗読／ムンロ王子

一つの鍵が 手に入ると／たちまち扉はひらかれる／固く
 閉された内部の隅々まで／明暗くつきりと見渡せて／／人
 の性格も／謎めいた行動も／物と物との関係も／複雑にか
 らまりあつた事件も／なぜ なにゆえ かく在つたか／ど
 うなるうとしていたか／どうなるうとしていたか／あつて
 ないほど すとん と胸に落ちる／／ちっぽけだが／それ
 なくしてはひらかなない黄金の鍵／人がそれを見つけ出し／
 きれいに解明してみせてくれたとき／ああ と呻く／私も
 行つたのだその鍵のありかの近くまで／もつと落ちついて
 ゆっくり佇んでいたら／探し出せたにちがいない／鍵にす
 れば／出会いを求めて／身をよじつていたのかも知れない
 のに／／木の枝に無造作にぶらさがり／土の奥深くで燐光
 を発し／虫くいの文献 聞き流した語尾に内包され／海の
 底で腐食せず／渡り鳥の指標になつてきらめき／束になつ
 て空中を ちゃりりんと飛んでいたり／／生きいそぎ 死
 にいそぐひとびとの群れ／見る人が見たら／この世はまだ
 ／あまたの鍵のひびきあい／ふかぶかとした息づき／燦然
 と輝いてみえるだろう

#ムンロ王子
 ハイブリッド・パフォーマー、タロット占い
 他。東大法TVに多数出演。戯曲や競馬予想
 も行う多才多芸。



水滴を落とした時にできたウォーター



金の鍵と鍵穴

方言辞典

朗読／本橋映子

よばい星 それは流れ星／いたち道 細い小径／
 でべそ 出歩く婦人／こもかぶり 密造酒／
 ちらんばらん ちりぢりばらばら／
 のおくり／のやすみ／つぼどん／ごろすけ／
 考えることばはなくて／野兎の目にうつる／光のような／
 風のような／つくしより素朴なことばをひろい／
 遠い親たちからの遺産をしらべ／よくよく眺め／
 貧しいたんぼをゆずられた／長男然と 灯の下で／
 わたしの顔はくすむけれど／
 炉辺にぬぎすてられた／おやじの／木綿の仕事着をみやる
 ほどにも／
 おふくろのまがつた脊中を／どやすほどにも／
 一冊の方言辞典を／わたしはせつなく愛している。

弾き語り

わたしが一番きれいだったとき

歌&演奏／引田香織

わたしが一番きれいだったとき／街々はがらがら崩れてい
 って／とんでもないところから／青空なんか見えたりし
 た

わたしが一番きれいだったとき／まわりの人達が沢山死ん
 だ／工場で 海で 名もない島で／わたしはおしゃれのき
 っかけを落としてしまった

・
 ・
 ・

わたしが一番きれいだったとき／わたしはとてもふしあわ
 せ／わたしはとてもとんちんかん／わたしはめっぼうさび
 しかった

だから決めた できれば長生きすることに／年とってから
 凄く美しい絵を描いた／フランスのルオー爺さんのように
 ね

#本橋映子

横浜市出身。ピアノ、チェロ、フルート、三
 味線など、音楽とのコラボによる朗読会に多
 数出演。朗読を田中泰子氏に師事。太宰治、
 夏目漱石、藤沢周平、絵本等ジャンルは幅広
 い。田中泰子主宰の銀の会会員、朗読と文学
 の会会員。お花も好きで学生時代に草原流師
 範取得。



#引田香織

福岡出身のシンガーソングライター。元アニ
 ソン歌手。文学作品や憲法にメロディをのせ
 歌っています。茨木のり子の詩を弾き語りで
 表現。現在は、千葉の田園の一軒家で愛児と
 新生活。



自分の感受性くらい

歌&演奏／引田香織

ばさばさに乾いてゆく心を／ひとのせいにはするな／みずから水やりを怠っておいて
 気難しくなってきたのを／友人のせいにはするな／しなやかさを失ったのはどちらなのか
 苛立つのを／近親のせいにはするな／なにかも下手だったのはわたくし
 初心消えかかるのを／暮しのせいにはするな／そもそもがひよわな志にすぎなかった
 駄目なことの一切を／時代のせいにはするな／わずかに光る尊厳の放棄
 自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかもものよ

舞踏

鶴

舞踏／三浦一壮

朗読／松島 邦
伴奏／小森俊明

鶴が／ヒマラヤを越える／たった数日間だけの上昇気流を捉え／巻きあがり巻きあがりして／
 九千メートルに近い岬岬（がが）たるヒマラヤ山系を越える
 カウカウと鳴きかわしながら／どうやってリーダーを決めるのだろう／どうやって見事な隊列を組むのだろう
 涼しい北で夏の繁殖を終え／育った雛もろとも／
 越冬地のインドへ命がけの旅／映像が捉えるまで／
 誰にも信じてできなかった／白皚皚（はくがいがい）のヒマラヤ山系／突き抜けるような蒼い空／
 遠目にもけんめいな羽ばたきが見える
 なにかへの合図でもあるような／純白のハンカチ打ち振るような
 ／清冽な羽ばたき／羽ばたいて／羽ばたいて
 わたしのなかにわずかに残る／澄んだものが／はげしく反応して
 ささなみ立つ／今も／目をつむれば／まなかいを飛ぶ／
 アネハヅルの無垢ないのちの／無数のきらめき



#三浦一壮

1937年岩手県生まれの舞踏家。早稲田大学在学後、モダンダンスを全身で表現している。茨木のり子の精神性の表現のため特別出演。



#小森俊明

作曲家・編曲家・ピアニスト。東京藝術大学大学院作曲専攻修了。現代音楽、クラシック、異分野のアーティストとのコラボレーションなど多分野で活躍。コンクールで入選受賞。芸術著作多数。



洗楓座による茨木のり子の行事開催のまとめ

2024. 12. 21	茨木のり子2024冬		
2024. 9. 21	茨木のり子2024秋	鎌倉生涯学習センター	http://www.kofuza.com/html/images/noriko921flyer.pdf
2024. 6. 15	茨木のり子2024夏	松戸商工会議所	http://www.kofuza.com/html/images/noriko615flyer.pdf
2024. 2. 17	茨木のり子2024春	中目黒トライ	http://www.kofuza.com/html/images/noriko217detail1.pdf
2023. 6. 12	茨木のり子と金澤翔子 パーステ ー記念イベント」くいま二人の 筆跡から学ぶこと」	北とびあ（北区）	http://www.kofuza.com/html/images/noriko217flyer_facehttp://www.kofuza.com/html/images/noriko217flyer_back.rev.jpg.rev.jpg
2022. 11. 23	茨木のり子2022冬／対話	日比谷図書文化館 小ホール(千代田区)	http://www.kofuza.com/html/images/noriko1123_back.pdf
2022. 11. 17	防災食を味わう『茨木のり子の献 立帖』のメニューから	旧軽井沢公民館 大 会議室&調理室	http://www.kofuza.com/html/images/karuizawa_1117.pdf
2022. 11. 6	日本語を味わう ―茨木のり子の 詩作を題材として	くつかけテラス(中 軽井沢図書館)多目 的室	http://www.kofuza.com/html/images/1106_face.pdf http://www.kofuza.com/html/images/1106_back.pdf
2021. 12. 22	茨木のり子2121冬／歳月	日仏文化協会汐留ホ ール(港区)	http://www.kofuza.com/html/images/back_final.pdf http://www.kofuza.com/html/images/noriko1222_back.jpg
2020. 10. 9	茨木のり子2020秋／怒ると きと許すとき	東京ウイメンズブラ ザ(渋谷区)	http://www.kofuza.com/html/images/face_rev.png http://www.kofuza.com/html/images/bac_back_final.pdf

2019. 11. 9	茨木のり子2019秋／倚りか からず	タワーホール 船堀 (江川区)	http://www.kofuza.com/html/images/funahori.pdf
2019. 11. 5	『倚りかからず』開催予告	荘内日報	https://www.facebook.com/groups/2518042215133523/posts/2556934047911006/

コラムなど

2023. 3. 21	鶴岡と茨木のり子と鶴岡	文化通信第41回	http://www.kofuza.com/images/bunka_41_321.pdf
2022. 11. 22	茨木のり子の故郷／愛知県西尾 市	文化通信第37回	http://www.kofuza.com/images/bunka_37_1122.pdf
2022. 2. 1	茨木のり子からみる男女平等参 画／男女共同参画との関わり	茨木のり子六月の 会、会報、第87号	http://www.kofuza.com/html/images/gatu_2022.pdf https://www.facebook.com/photo?fbid=4901292996624154&set=pcb.3207516112852793
2020. 9. 14	「出来る状況づくり」と女性の力	文化通信第5回	http://www.kofuza.com/images/bunka_5_0914.pdf
2015. 1. 26	茨木のり子のメッセージ	新エネルギー新聞 第18号	http://www.kofuza.com/images/nen_18.pdf

YouTube (Youtube)

2023. 6. 12	北とびあ 写真ダイジェスト版		https://www.youtube.com/watch?v=MKCYtkaga_U
2022. 12. 29	茨木のり子2022秋／対話		https://www.youtube.com/watch?v=b8xNtjLW-eE

Facebookサイト

2022. 11. 13	茨木のり子「言の実」の会		https://www.facebook.com/groups/1017829096275726
2019. 9. 16	江戸川茨木のり子の会		https://www.facebook.com/groups/2518042215133523